令和7年度放課後等デイサービス 職員向け評価アンケート 実施報告

1. 実施概要

 実施事業者/事業所:
 株式会社Kaien ティーンズ三鷹 テル期間:

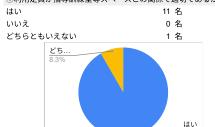
 実施期間:
 令和7年10月1日~10月31日

 回答者:
 放課後等デイサービススタッフ

回答者数:12 名回答率:85.7 %

2. 回答結果

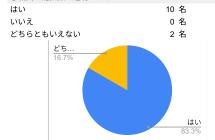
①利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか



※①に関して改善目標、工夫している点など

同時に10人そろったタイミングではやや手狭に感じます。

②職員の配置数は適切であるか



※②に関して改善目標、工夫している点など

おおむね問題はありませんが、一人ずつと丁寧にかかわる中では手が足りなくなることもあります。

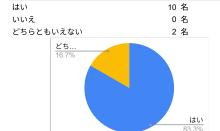
③事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか



※③に関して改善目標、工夫している点など

マンションの2階で、テナントはエレベーターが使えないので車いすや肢体不自由児の際はマンションと交渉が必要。

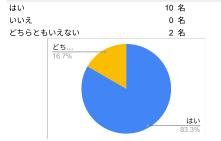
④業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか



※④に関して改善目標、工夫している点など

コミュニケーションは十分に取れているように思いますが、サイクルを意識した形にはなっていないと思います。

③保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか



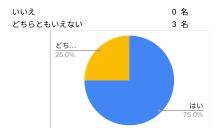
※⑤に関して改善目標、工夫している点など

アンケート回答を基に必要に応じ面談を実施している。 保護者の意向について不明瞭で捉え切れていない感じる場合や、ティーンズとの意向がそろっていないと感じる場合があります。

⑥この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか

はい 9名

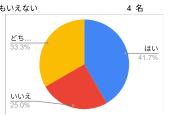
- ·-※⑥に関して改善目標、工夫している点など





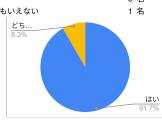


※⑦に関して改善目標、工夫している点など

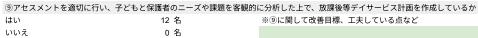


⑧職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか





※⑧に関して改善目標、工夫している点など



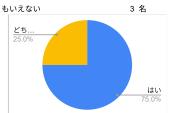


※⑨に関して改善目標、工夫している点など





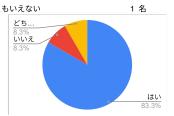




※⑩に関して改善目標、工夫している点など

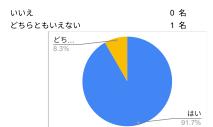
⑪活動プログラムの立案をチームで行っているか





※⑪に関して改善目標、工夫している点など

⑫活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか

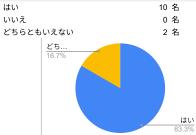


③平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか



※⑬に関して改善目標、工夫している点など

⑭子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか



※⑭に関して改善目標、工夫している点など

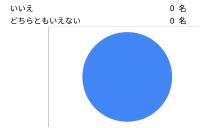
⑮支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか



※⑮に関して改善目標、工夫している点など

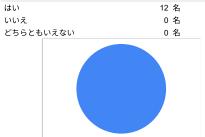
ヘルプに入っている他拠点の職員がいる場合は、その職員担当のお子さんから順に打ち合わせをしている

⑯支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか はい 12 名

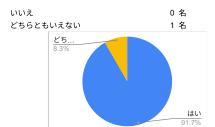


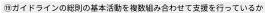
※⑯に関して改善目標、工夫している点など

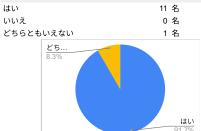
⑪日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか



※⑪に関して改善目標、工夫している点など

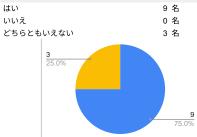






※⑲に関して改善目標、工夫している点など

⑩障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか



※⑳に関して改善目標、工夫している点など

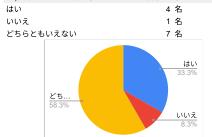
21)学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか ※21)に関して改善目標、工夫している点など

10分前にタイマーを鳴らす



お子さんに必要な場合、担任等と適宜連絡を取っている

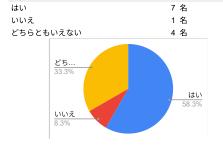
22)医療的ケアが必要な子供を受入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか



※22)に関して改善目標、工夫している点など

医療的ケア児が利用者としてきたことが無いため。医療との連携は取れる体制である。

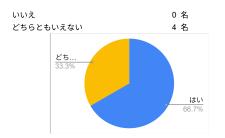
23)就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか



※23)に関して改善目標、工夫している点など

ニーズがあった時に実施

24)学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか



保護者の要望があった場合など必要に応じて共有している。

25)児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか



※25)に関して改善目標、工夫している点など

26)放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか



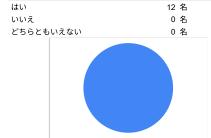
※26)に関して改善目標、工夫している点など

27)(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか



※27)に関して改善目標、工夫している点など

28)日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか



※28)に関して改善目標、工夫している点など

29)保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか



※29)に関して改善目標、工夫している点など

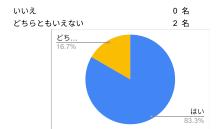
参加者が固定してきているため、内容や開催日程なども考慮したい。

30)運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか

L)

10 名

※30)に関して改善目標、工夫している点など

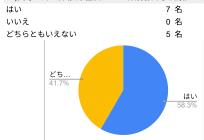






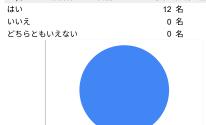
※31)に関して改善目標、工夫している点など

32)父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか



※32)に関して改善目標、工夫している点など

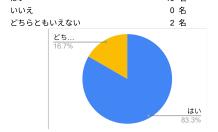
33)子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか



※33)に関して改善目標、工夫している点など

保護者から申し出があった際は、話しやすい職員が対応するなど、保護者の苦情の根幹となる部分を丁寧に聞き取ることを心がけている。

34)定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか はい 10 名

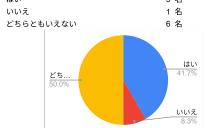


※34)に関して改善目標、工夫している点など

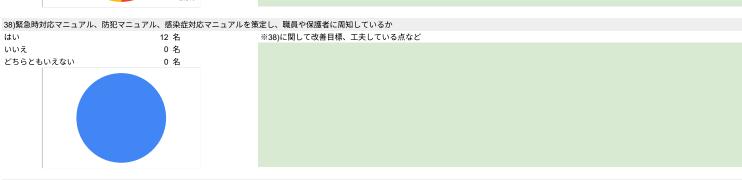
35)個人情報に十分注意しているか

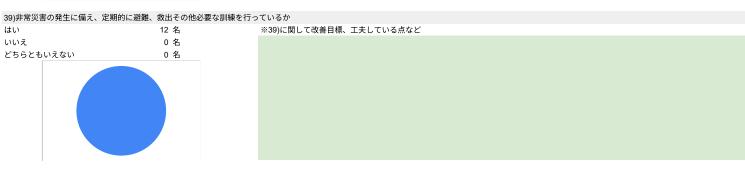
はい 12 名 いいえ 0 名 0 名 ※35)に関して改善目標、工夫している点など

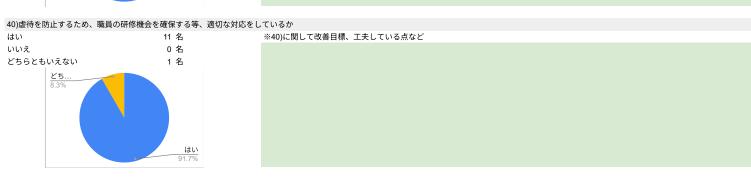


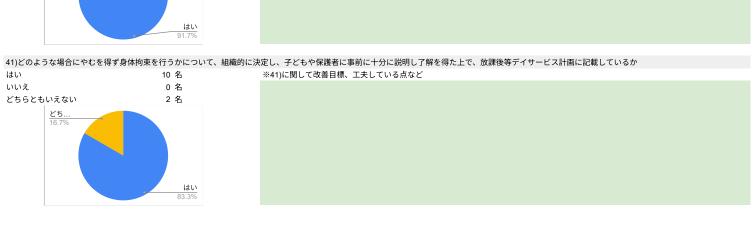


買い物イベントなど、子どもたちが地域で活動することは意識してプログラムを設定している。









42)食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか



※42)に関して改善目標、工夫している点など

食物アレルギーのあるお子さんの参加できるイベントの場合、事前にアレルギーの危険性のある食材を確認するようにしている。 通常運営では食事の提供をしていない。イベントなどで必要な時は確認をしている。

43)ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか



※43)に関して改善目標、工夫している点など

3. 事業所考察

、、、、アセスメントや計画作成、日々の記録、安全管理といった支援の根幹となる業務プロセスにおいては、ほぼ全員が「はい」と回答しており、標準的な業務は非常に高い水準で定着しています。 一方で、利用者が 増えた際の「スペースの狭さ」や、参加者が固定化しつつある「保護者支援・地域連携」など、環境面・対外的な活動において課題が見られました。設備等のハード面は変えられない部分も多いため、ソフト面 (工夫や運用)での改善を目指します。

【主な課題と改善の方向性】 本結果については、令和7年11月4日に事業所内会議において共有、討議を行いました。

- ・PDCAサイクルの意識化とニーズ把握:日々の業務は回っていますが、「改善サイクル(PDCA)」とし ての意識がまだ希薄です。会議の中で「課題→実行→振り返り」の流れを可視化し、保護者の潜在的な
- ニーズを汲み取る力をチームで養います。
 ・保護者支援・地域連携の活性化:「参加者が固定化している」との声があったペアレントトレーニングや、地域との関わりについて改善を図ります。開催時間や内容を見直して新しい保護者が参加しやすい雰
- ■気を作るとともに、無理のない範囲で地域行事等の情報をキャッチできる体制を作ります。 ・集団活動と個別支援の両立(役割分担の強化):「一人ひとりと丁寧に関わろうとすると手が足りなくなる」という声がありました。限られた人員の中で、誰が全体を見て、誰が個別のケアに入るかという「チーム内での役割分担と連携」の精度をさらに高め、安全管理と手厚い支援の両立を目指します。